

御殿場市 富士山ハザードマップ

作成の目的

平成16年版の富士山ハザードマップ作成以降、国や研究機関、火山専門家などによる富士山の学術調査や数値シミュレーション等が進み、噴火実績をこれまでの3,200年前から5,600年前までに拡大して、複数の噴火口跡を新たに追加したほか、大規模噴火となった864年貞観噴火の際の溶岩噴出量が7億m³から13億m³に変更されました。

富士山火山防災対策協議会ではこうした新しい知見等を踏まえた火山防災対策を進めるため、火山専門家等の助言も踏まえ、平成30年度から見直しの検討を始め、令和3年3月に富士山ハザードマップの改定に至りました。その改定を受けて作成したものが、この「御殿場市富士山火山防災マップ」になります。

改定版では溶岩流について、前回から約5倍となる252通りのシミュレーションを行いました。また、噴火口跡の追加により、想定する火口範囲が広がることも、大規模噴火では、溶岩の噴出量が従前の約2倍となる13億m³と想定したことから、一部地域では溶岩流の到達時間が従前よりも早まる予測にもなりましたが、詳細な分析の結果、溶岩流が到達しない箇所も確認できました。おもて面のドリルマップは、溶岩流、火砕流などの個々の火山現象を数値シミュレーションなどによって描いた分布図です。

しかし、シミュレーションの前提と異なる火山現象が生じる可能性があることにも注意が必要です。また裏面の可能性マップは、ドリルマップをもとに溶岩流、火砕流、噴石などの火山現象がおよぼす範囲を現象ごとに示した領域図となります。現時点(令和4年2月)においては富士山が噴火するような兆候はありません。しかし、この防災マップにより住んでいる地域にどんな危険が及ぶのかを知り、皆さんが自ら安全を確保するためには、どうすれば良いかを認識していただく目的で作成しました。令和4年2月作成

溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップ)

溶岩流ドリルマップ 重ね合わせ図

(注) 各計算開始地点の溶岩流ドリルマップを重ね合わせた図で、一度の噴火でここに塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるわけではありません。

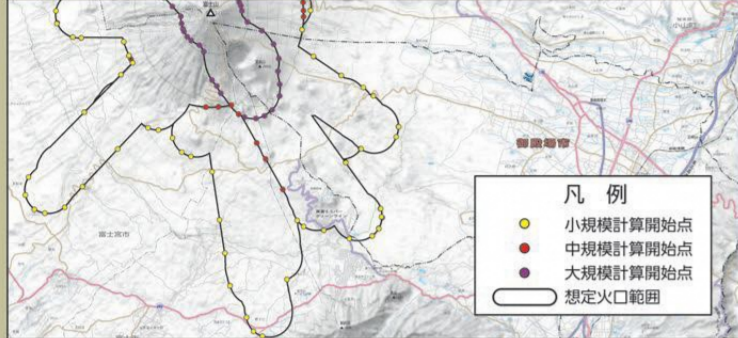
※計算開始地点から各規模噴火の溶岩流が発生した場合の計算結果であり、これ以外の場所で噴火が発生した場合は、異なる結果となります。

1 溶岩流ドリルマップの説明

富士山の火口は山頂を中心に広い範囲に分布し、宝永噴火口のように山頂以外から噴火する可能性があります。そのため、過去に噴火した火口を基に火口が生じる可能性の高い範囲を小規模噴火・中規模噴火・大規模噴火ごとに設定しました。

2 溶岩が流れ出る可能性のある火口の設定

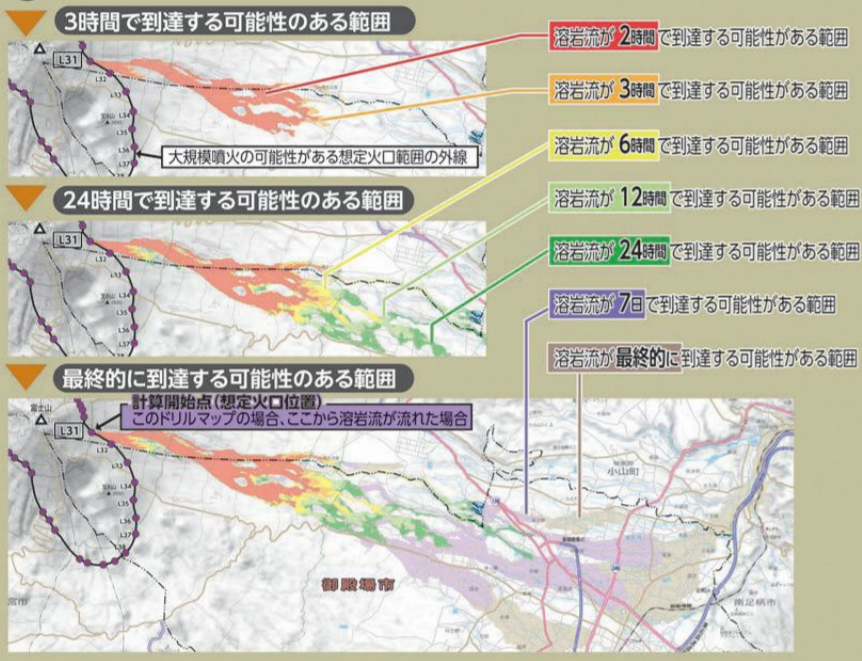
それぞれの規模の火口範囲の外縁(最も平地に近い側)に地形を考慮し計算開始地点(火口)を設定しました。



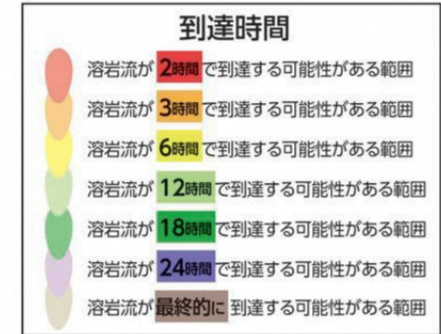
3 溶岩流のシミュレーション

溶岩流のシミュレーションを時間ごとに表現したものが溶岩流のドリルマップです。大中小の規模ごとに御殿場市に流れ出る可能性のある火口全てのドリルマップを重ね合わせたものを掲載しました。

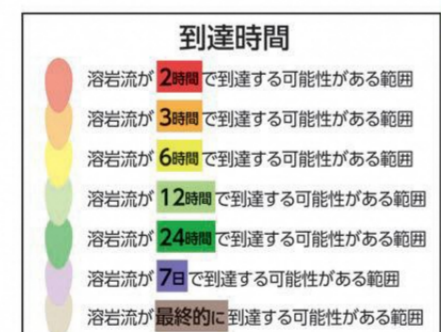
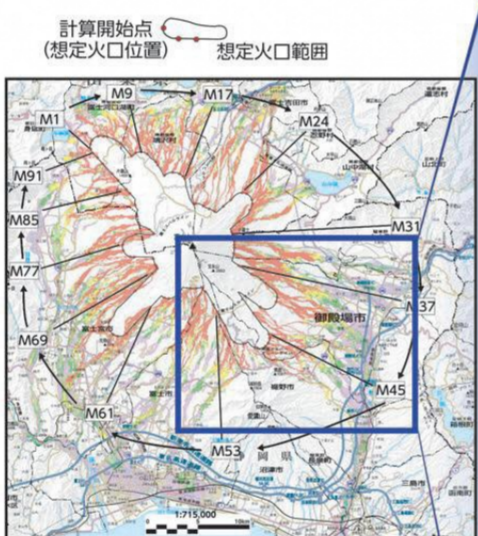
ドリルマップの見方(事例: [L31] 計算開始地点 大規模溶岩流のドリルマップ)



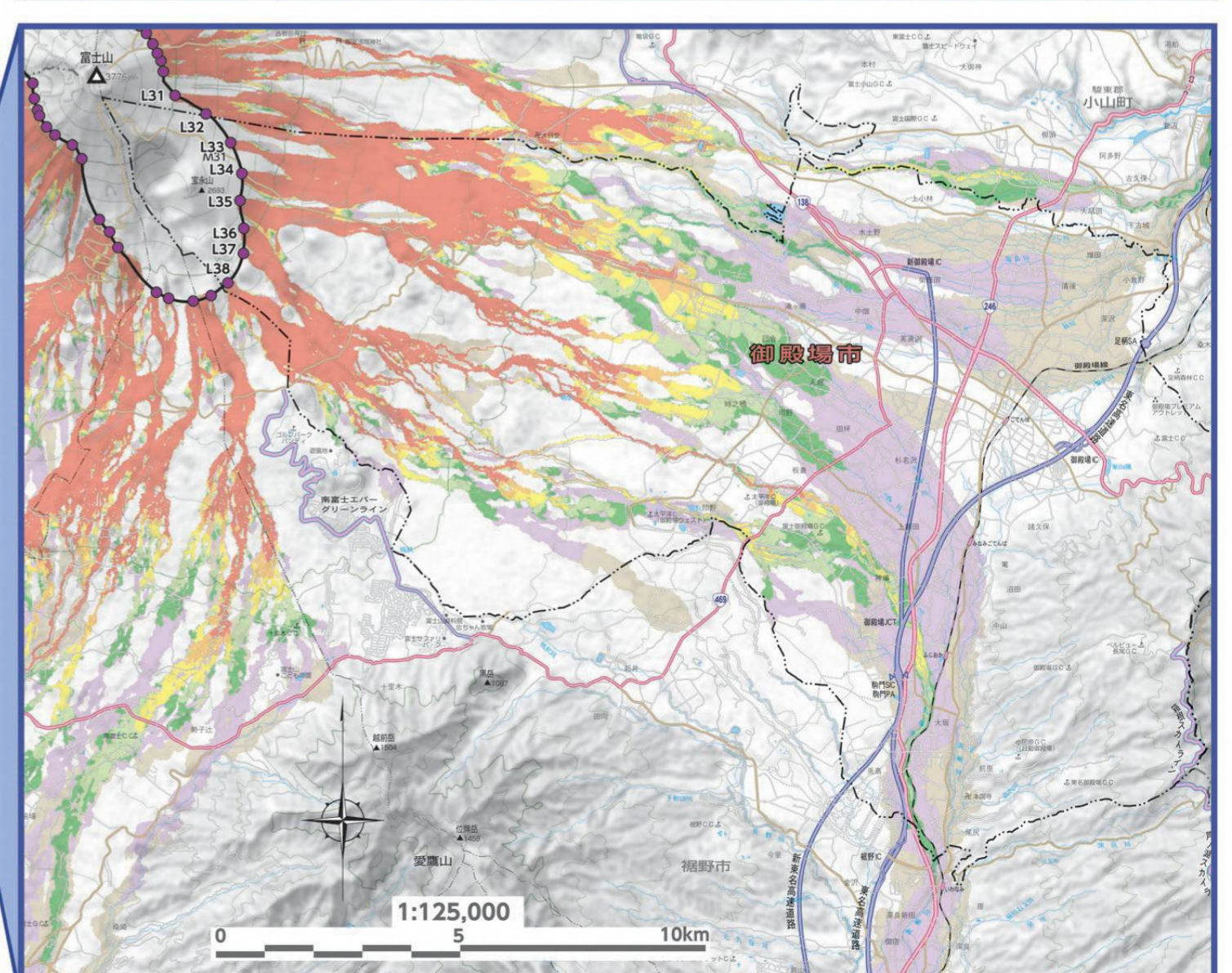
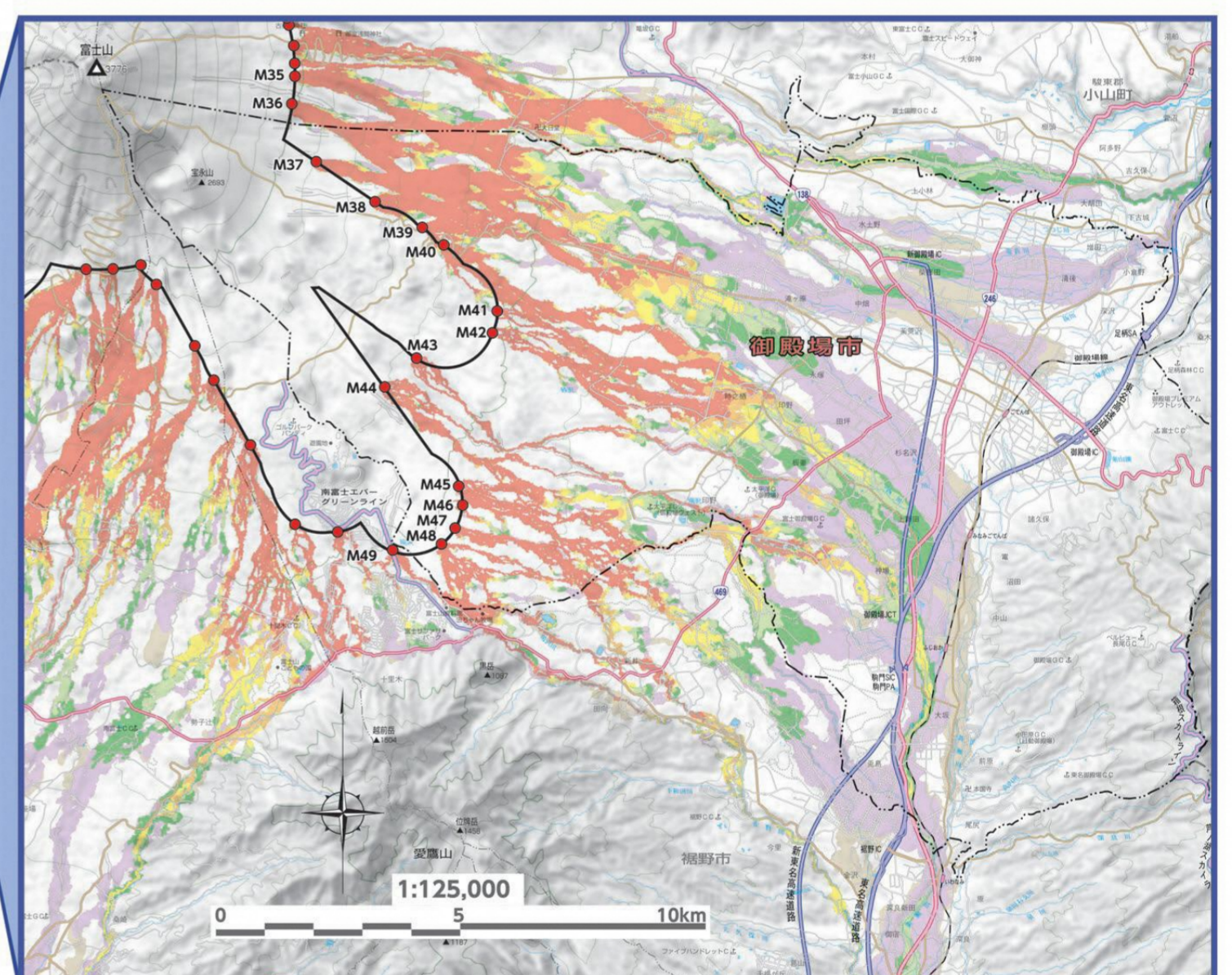
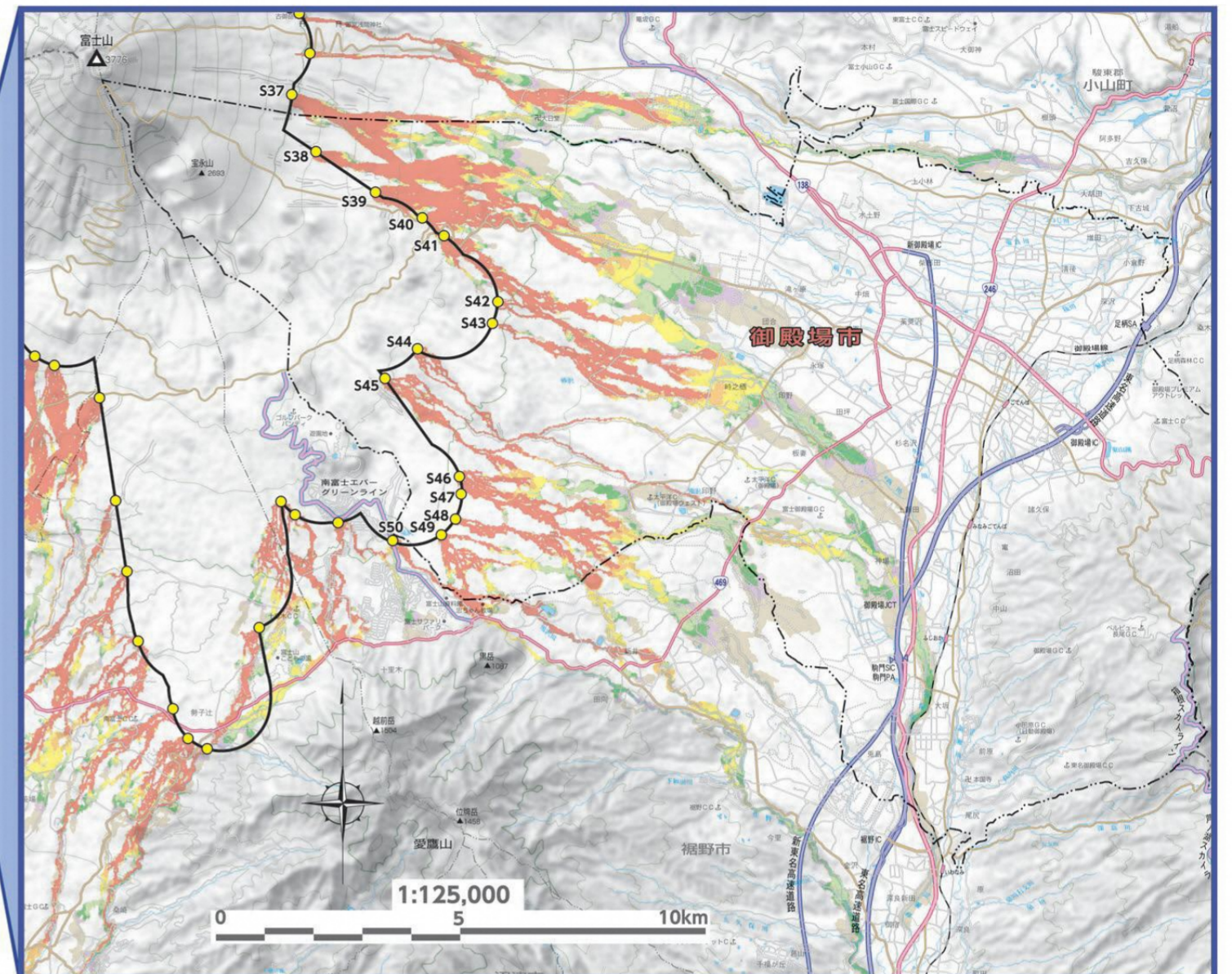
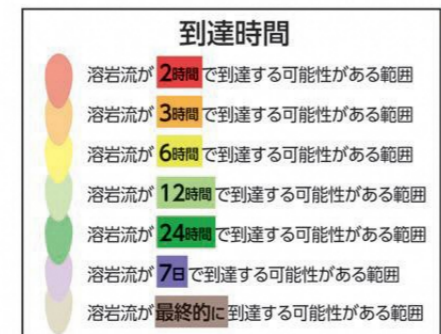
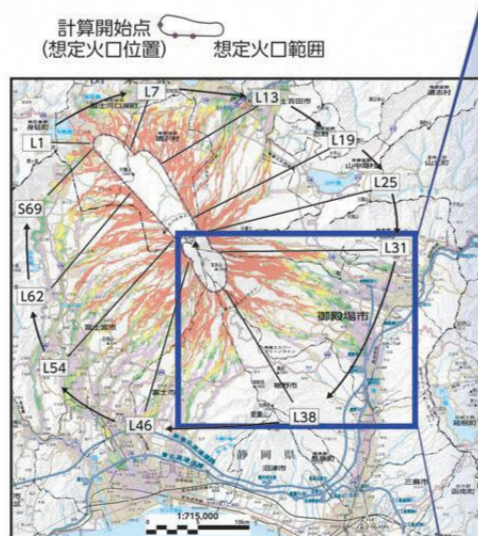
小規模溶岩流 (噴出量 2,000万m³)



中規模溶岩流 (噴出量 2億m³)



大規模溶岩流 (噴出量 13億m³)

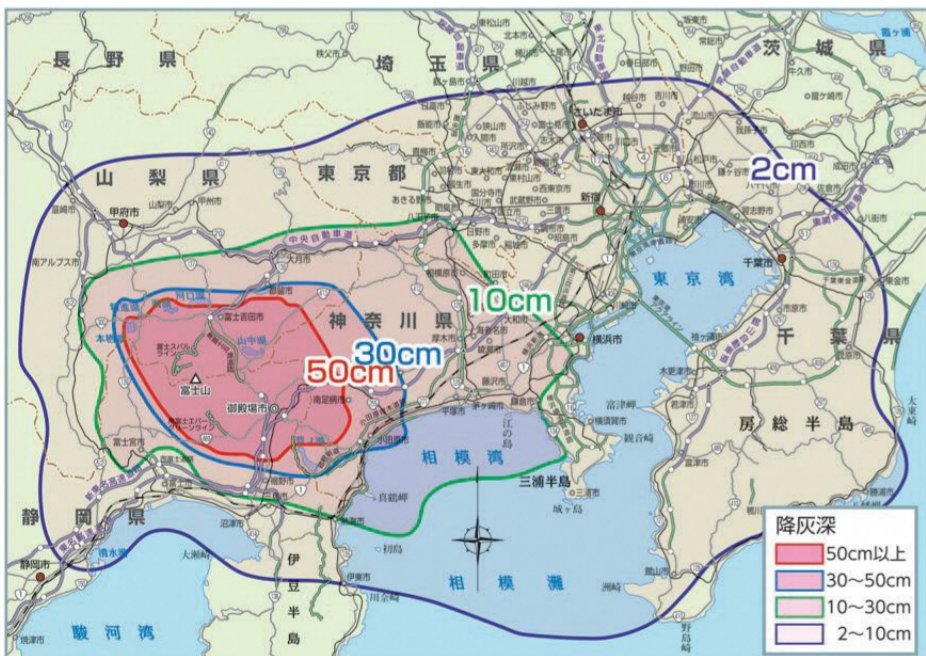


火山灰(かざんばい)の到達範囲

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります。季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。

降灰があったら...

- 灰を吸わないようにするためマスクを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくることもあるので、やむを得ず外に出るときはヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を閉めて建物や屋根を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積ると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



富士山の火山活動に関する情報が、「噴火警報」、「噴火警戒レベル」として発表されます。

- この情報は、噴火警報軽減のため気象庁から発表され、NHKなどの報道機関や各市町から発信されます。(御殿場市では同報無線(屋外子局・戸別受信機)、広報車などによりお知らせします。)
- この情報は、危険な範囲や防災対応に応じて5つのレベルに区分し、取るべき行動をお知らせします。
- 富士山が噴火しそうな時は、情報に注意し、万が一に備えて避難の準備をする等、適切に行動しましょう。
- この他、火山活動の月間情報などは「火山の状況に関する解説情報」で発表します。

※これまで発表されていた「緊急火山情報」「臨時火山情報」「火山観測情報」は廃止されました。

予報警報	対象範囲	噴火警戒レベル	火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者等の対応
噴火警報	居住地域	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	—
噴火警報	居住地域	レベル4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	—
火口周辺警報	火口から居住地域まで	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制等)状況に応じて規制範囲を判断)。	登山禁止や入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
火口周辺警報	火口周辺	レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等。(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
噴火予報	火口内等	レベル1 (火山活動の監視)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴火等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	通常の生活。	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。

(※)避難対象地域での行動の目安です。噴火の状況により取るべき行動が変わりますので、情報の変化に注意しましょう。噴火警報が発表されていない場合でも、突然噴火することがあります。